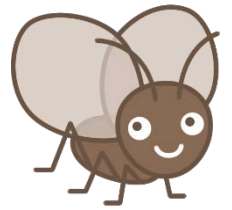


# 播磨 まちかどニュース

## With いなみ野学園



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BAN テレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

### ★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 104

## 「玉ねぎ・ジャガイモ掘り体験」

◆配信日：令和7年8月1日◆



広い農園に、玉ねぎ、ジャガイモ、ナス、ピーマン、シシトウなどなどの苗を植え、すぐに生える雑草を何度も抜き取り、たびたび水やりもして、いよいよ大きくなった野菜の収穫を子どもたちに体験してもらおうという今回の企画です。

兵庫大学附属幼稚園児たちを対象に「玉ねぎ・ジャガイモ掘り体験」を数回に分けて行いました。幼稚園の年長組、年中組、年少組と、親子体験教室の参加者の4組が対象でした。加古川市野口町水足にある「兵庫県生きがい創造協会高齢者園芸センター」の農園で、子どもたちはスクールバスで来園し、兵庫大学ヒューズの高齢者学生のみなさんが「子どもたちのために！！」と、育ててきた野菜を掘る体験です。



その前には、高齢者のみなさんが「土づくり・畑づくり」に取り組んでくれました。前年（2024年）の10月には「土づくり」から。草刈りをして刈り取った草を堆肥にし、それを混ぜて土をほぐします。そして翌年（2025年）の3月には、玉ねぎの準備、ジャガイモの種芋の植え付けを。桜の

時期が過ぎるとジャガイモの花が咲く。花が咲く頃、地下茎ではジャガイモが大きく育っているのです。そしてジャガイモに、トマトに似た青い実がなります。自然に落ちて2週間程度で赤く色づきますが、トマトのように食べられません。こうした「土づくり・畑づくり」があって、今回の収穫体験へ・・・と。



ジャガイモ(種芋)の植え付け



玉ねぎの収穫体験は、5月29日と5月30日。ジャガイモの収穫体験は6月12日と6月27日に行われました。



一人一人スコップと大きなビニール袋を手  
に、「わーい、すごいで、大きいで」、「沢山取れたわ」「重くて持たれへん」と、大喜びする子どもたち。また、土を掘り起こす時に見つけたミミズやダンゴムシに夢中の子も。玉ねぎやジャガイモをスコップで掘り起こしたり、虫に触れたり、土を通しての体験は子ども

たちには大きなインパクトがあった様子です。とても生き活きと楽しそうでしたから。

「玉ねぎ・ジャガイモ掘り体験」をやってきて、大喜びする子どもたちの歓声と笑顔を見るだけでも、準備に関わったヒューズの高齢者学生のみなさんは、「それだけで十分、満足できた、世話した甲斐があった」と話されていました。



最後に澤田真弓園長先生にインタビューして、感想を聞きました。

「土に触れる体験は、子どもたちもすごく楽しそうでした。ミミズを見つける子もいて、そんな体験も楽しかったです。子どもたちはみな、キラキラの笑顔でした」と話されました。

なかなか家では体験できない今回の企画。子どもたちには「ヤッター!」「楽しかった!」「たくさん取れた!」と、満足のいくものだったようです。

続いて、「季節の花便り」です。

初めは、姫路市夢前町置本にあるヤマサ蒲鉾の「蓮の花苑」。いなみ野学園大学院野口邦弘さんが撮影してくれました。広い花苑にたくさんの蓮の花が咲いていました。

次は、加東市東古瀬にある平池公園の蓮の花。ここは「大賀ハス」として有名です。

2000年前の古代ハスの実から発芽させ、それを譲り受けて花を咲かせたのがここ平池公園の「大賀ハス」です。

続いて、稲美町加古にある六軒屋池の蓮の花。ここは白い蓮の花が咲いていました。

最後にひとこと、「見事に見せる 美しさ  
その時に 必ず拝めて 心安らぐ」



(ナレーション長谷川 和子)



## 作って楽しい親子陶芸教室

◆配信日：令和7年8月16日◆



夏休みの恒例となった「親子陶芸教室」。子どもと保護者ペアでの参加です。毎年、参加希望者が多く、最終、抽選により40組の親子が選ばれました。今回は、その「親子陶芸教室」の模様をお伝えします。



7月21日（月）「海の日」に開催されました。いなみ野学園「親子陶芸教室」「作って楽しい親子陶芸教室」と銘打って、親子で触れ合い、ものづくりの楽しさを実感してもらおうという企画で、地域貢献活動の一環として陶芸学科が中心に開催してきました。

9:30～14:30まで、陶芸学科の教室棟で行われました。

9:30からの「オリエンテーション」では、開講のあいさつや作品づくりの諸注意などがありました。



初めに石井敏一陶芸学科学科主任が、「抽選で今回選ばれたことはラッキーでした。参加できたことは、本当によかった

ですね。どうぞ今日一日を楽しんで欲しいです」と話されました。その後は今日の取り

組みについて、「作品づくりでは、午前中は湯呑・花瓶づくりを、午後からは湯呑・お皿の絵付け体験を行います」と説明がありました。

開講式のあと、2つの教室に分かれて、午前の部の「湯呑、花瓶づくり」に移りました。

クーラーの効いた2教室で、親子一緒に共同作業しながら、作品作りに取り組みました。



今回は、いなみ野学園陶芸学科の学生が先生役を務め、補助者として陶芸学科：学科主任・技術指導員も一緒に指導にあたってくれていました。

湯呑づくりでは、粘土で高さを上に上げていくのですが、口が大きく開いて

しまって・・・という子もいました。その時は傍の先生が手助けをしてくれ、子どもたちも粘土と格闘しながら熱心に取り組んでいました。

もう一つの花瓶づくりでは、粘土を平たく伸ばす作業から。平らにするには結構力が必要です。力を込めて丸い棒を転がしながら、少しずつ伸ばしていき長方形の形にするのです。それをパイプの筒に巻くと、30センチ

近くの高さになります。その後、パイプの筒を抜くと、花瓶の形ができあがります。そして、花瓶の周りに粘土で花や虫をくっつけたり、模様を作ったりして仕上げていきました。



午前部の後はお昼の食事タイム。午後1時から、第2部のお皿や湯呑の「絵付け体験」に挑戦しました。親子で協力し合いながら、みなさん一生懸命に取り組んでいます。



した。

スマホから描きたい絵を取り出して、その



絵を見ながら描く子もいて、「今どきの子どもたちだなあ」と感心しながら

見ていました。1時間ほどの間にみなさんそれぞれに作品が仕上がっていきました。これらの作品をこの後、学園の窯で焼いてもらって、夏休みの終わり頃には完成品が届くそうです。楽しみです。

最後に、参加した子どもと保護者にインタビューして、感想を聞きました。

「楽しかった。思う色ができた。お父さんに半分ぐらい手伝ってもらった」と、お父さんは「湯呑の形にするのが難しかったが、これでビールを飲んだらおいしいだろうな」と。

もう一組、「楽しかった。絵は自分で考えた。思い通りにいかず簡単でなかった」と。傍でお母さん相槌を打っていました。



最後に子どもたちのサポートをされた辻真由美さんにも感想を聞きました。

「子どもたちの発想がスゴイ、素晴らしいアート作品ができていました。参加者のみなさんに楽しんでもらえて良かったです」と話されました。

今回が初めてという親子がほとんどで、しっかり話を聞きながら、親子仲よく、楽しく粘土と向かい合い、格闘している様子がわかりました。みなさん、とても楽しそうでしたね。そこでひとこと、「親子の絆で作り上げた 世界にたった一つの作品 見事完成！」。

ひとときを土に触れて、そして力を合わせて作り上げた陶芸作品、夏休み中のいい思い出となったことでしょう。今から、夏休みの終わりの仕上がりが楽しみです。



(ナレーション 大前 小夜子)

